

## 『ノーベル賞メダルに触れてきました！』

皆様、湯川秀樹博士をご存じであることと思います。

日本人初のノーベル賞受賞者として有名な理論物理学者です。今でこそ、毎年ノーベル賞候補として、大勢の日本人の名前が列挙されますが、湯川博士が受賞されたのは 1949 年でノーベル賞が創設されてから 50 年以上が経過していました。以後 2019 年の吉野彰博士の化学賞受賞まで 27 名の日本人が受賞されています。



湯川博士は 1935 年に「素粒子の相互作用について」で中間子の存在を予言し、その後 1949 年にノーベル物理学賞を受賞されました。湯川博士は京都帝国大学、大阪帝国大学、東京帝国大学、米国のプリンストン高等研究所、コロンビア大学、京大基礎物理学研究所で研究生活を送られましたが、「中間子論」を提唱されたのは西宮市の苦楽園にお住まいの時でありました。現在、苦楽園小学校には「中間子論誕生記念碑」があることをご存じでしょうか？

湯川博士は反核運動にも積極的に携わりパグウォッシュ会議(核兵器とすべての戦争の廃絶を訴える国際会議)に参加されましたが、核を絶対悪と考え廃絶すべきという考えから、核兵器との共生、抑止の考えに移ってきたため、考えの異なる博士は脱退されたそうです。

また 1956 年には原子力委員会委員長の正力松太郎氏の要請で原子力委員になられましたが、正力氏は、外国から購入してでも 5 年目までには実用的な原子炉を建設するという持論であったのに対し、湯川博士は基礎研究を省略して原発建設を急ぐことは将来に禍根を残すことになる、と反発され翌年には辞任されました。

湯川博士が晩年を過ごされた京都府左京区下鴨の湯川邸(写真1)は、近々京都大学に寄贈されるそうですが湯川博士のご子息のお嫁さんである湯川由規子様のご厚意で、個人所有の間に見学させてもらえることとなり、貴重な賞状やメダルなどを実際に手に取って拝見できる機会を得ました(写真 2、3)また湯川博士は能書家でもありまた宮中歌会始の召人を務められた歌人でもあるそうです。ご自宅にも多くの直筆の歌が飾られていました(写真 4)。

とても優しい素晴らしい書であると素人ながらに感じました。

下世話な余談ですが、かつてノーベル賞メダルはオークションにかかったことがあり 5 億円で落札されたそうです。

このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、ご報告させていただきます。

